

**第1回 《寧楽(なら)の美 —法隆寺五重塔釈迦涅槃塑像—****日時：5月20日(月) 10:30~12:00 講師：呉谷 充利 建築史家・相愛大学名誉教授**

屈指の白眉をかぞえる美の世界は、文人のこころを捉えた法隆寺夢殿の救世観音に象徴される人間の淋しさへの慈愛、さらに新薬師寺や東大寺にみる十二神将や四天王像はこれとうって変わる勇壮な美を見せる。この勇壮な美を決定づけるものはそれらの彫像の内から、もっと正確に言えば、その深奥から発せられる力の表現にある。これら神将の美の起源を仏教伝来以前の古代に求め、比類なき表現を見せる法隆寺五重塔の釈迦涅槃塑像を改めて古代益荒男人(ますらおびと)の生を今日に伝えるものとして考えてみたい。慟哭のそれらの像はさながら文字なき古代からの手紙のようにも見える。「益荒男人(ますらおびと)」の世界を確かめながら、寧楽(なら)の二つの美を探ってみる。

**第2回 《終戦と美術—藤田嗣治と住喜与志の戦後》****日時：6月17日(月) 14:00~15:30 (★午後) 講師：平瀬礼太 美術史家・愛知県美術館**

陸軍美術協会の主要メンバーとして共に戦時を生き抜いた藤田と住。エコール・ド・パリの寵児として、戦争美術の牽引者として活躍した藤田と、帝大、新聞社員を経て美術界に暗躍した住は、年齢差や経歴の違いを超えて行動を共にしたが、彼等にはお互いに厳しい戦後が待ち受けていた。2人の戦中から戦後への知られざる活動に焦点を当て、ある一つの戦後史の形を浮かびあがらせる。

**第3回 《泉鏡花と〈奈良〉—『紫障子』を読む—****日時：7月15日(月) 10:30~12:00 講師：西尾元伸 帝塚山大学准教授**

泉鏡花『紫障子』(大正8)は、奈良を舞台とする作品です。作者の友人が大阪南地の藝妓を伴って奈良から京都をめくった際に出会った怪異譚、という形式で書かれる作品です。実は、本作の「作者の友人」こそ、鏡花を思わせる人物なのですが、その行程を見てみると奈良が観光地であるという要素が含まれていることに気づかされます。作中には、汽車で停車場(ステーション)に着いて、東大寺、大仏殿、興福寺などを巡るという見物の様子も描かれます。本講座では、そのような観光の視線に映る奈良に注目しながら、そのことと作品中の怪異譚とがどのようにかわるのかを考えてみたいと思います。

**第4回 《志賀直哉と動物》****日時：8月19日(月) 10:30~12:00 講師：吉川仁子 奈良女子大学准教授**

志賀直哉の作品にはよく動物が登場します。「犬」(『週刊朝日』 昭和3年1月2日号、執筆は昭和2年9月)では、炎天下の奈良の町を、行方不明になった飼犬を自転車で探しまわる「私」の姿が描かれます。今回は、この作品を含め、志賀の作品やエッセイの中で動物の登場するものをいくつか読み、志賀が動物をどのように描き、また、動物との関わりを通して何を描き出そうとしていたのか、考えてみたいと思います。

**第5回 《アルベール・カミュと母親—戯曲『誤解』を中心に》****日時：9月16日(月) 10:30~12:00 講師：東浦弘樹 関西学院大学教授**

20世紀フランスのノーベル賞作家アルベール・カミュ(1913~1960)は、「不条理の哲学」や「アンガージュマン(政治参加)の文学」で名高いが、実は彼ほど「母親」にこだわった作家はいない。カミュの作品を読み解くキーワードは「沈黙」と「無関心」だが、それは耳が不自由でいつも黙りこくっていたカミュの母親の沈黙、無関心からきている。本講座では、20年ぶりに実家に帰ってきた息子が、彼を息子と見分けられない母親と妹に殺されてしまうというカミュの戯曲『誤解』を中心に、小説『異邦人』、『ペスト』にも言及し、カミュの中にある母親イメージの変遷について語りたい。

**第6回 《吉川観方—日本文化へのまなざし》****日時：10月14日(月) 10:30~12:00 講師：松川綾子 奈良県立美術館**

→当初の予定より開催日が変更になっております。ご注意ください。

2019年9月28日から11月17日まで奈良県立美術館で開催する特別展「生誕125年没後40年 吉川観方—日本文化へのまなざし」(仮称)に関連して、日本画家で風俗史研究家の吉川観方(よしかわ かんぼう 1994-1979)の活動を紹介します。吉川観方は、明治27年(1894)京都市で生まれ、主に風俗史研究者として活躍しました。近世から近代に至る絵画や美術工芸品などの風俗資料約30,000点を収集したことで知られ、その一部は奈良県立美術館に収められています。一方で、京都市立絵画専門学校で日本画を学び、時代風俗に取材した人物画を描いて帝展で入選を果たすなど、日本画家としても足跡を残し、自ら収集した服飾品を用いて扮装写生会を開くなど、同時代の歴史画や風俗画の動向に多方面から関わっています。こうした吉川の活動や作品、収集品の紹介を通じて、吉川が深い理解と情熱を持って守り伝えようとした日本文化の魅力を改めて見つめ直していただく機会となれば幸いです。

**第7回 《森鷗外と奈良—帝室博物館総長としての為事》****日時：11月18日(月) 10:30~12:00 講師：瀧本和成 立命館大学教授**

鷗外森林太郎は、陸軍軍医総監、陸軍省医務局長を辞した後、1917(大正6)年帝室博物館総長兼図書頭に任命されました。(1922年に在職のまま逝去しています。)在任中は、さまざまな面から改革を実践しました。本講座では、鷗外の晩年に着目し、この約4年間にどのような「為事」に取り組んだのか。近代文学を代表する文豪の、知られることの少ない博物館長としての側面を〈奈良〉にも焦点を当てつつ、明らかにしたいと考えています。

※空席がある場合、各講座の参加が可能(350円/回)です。ご希望の方は志賀直哉旧居までお問い合わせください。

[http://www.naragakuen.jp/news\\_event/ids/004579.html](http://www.naragakuen.jp/news_event/ids/004579.html)

主催：志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス)、白樺サロンの会

# 志賀直哉旧居特別講座

## 2019 白樺サロンの会 (全7回)

- 古都の美、サロンのひととき -

この地に、古代の白眉が優に千年を越えて伝わり、  
近代に脱俗の場所として画家や作家が住み着いた。  
伝わる美の世界は歴史を越える普遍的な人間の意味を、  
静謐なその地は、深い思索をわれわれに与える。  
奈良高畑に残された有形、無形の遺産を継承して、  
芸術、文学、さらには文明への思索…。  
たぐいまれな歴史の地から知の世界へ…。  
思索を通したサロンのひととき、しずかな時が古都に流れる。

◆受講料	全7回 2,100円 (前納。全7回の入館料を含む) ・空席がある場合、各講座の参加が可能です (受講料 350円/回)。 ・学校法人奈良学園設置校の在籍者本人及び教職員は無料です。
◆定員	各回 35名 (先着順受付) ・定員になり次第、申込を締め切ります (受講料の納入により申込完了となります)。
◆会場	奈良学園セミナーハウス 志賀直哉旧居 (奈良市高畑町 1237-2)
◆申込	志賀直哉旧居 (0742-26-6490) 受付にてお申し込みください。
◆主催	奈良学園セミナーハウス 志賀直哉旧居、白樺サロンの会

### 志賀直哉旧居

平成12年に国の登録有形文化財(第29-34~36号)に認定され、平成28年には奈良県指定文化財として指定されたこの邸宅は、広く一般の方々に公開しています。また、各種公開講座の開催や奈良学園が設置する各学校の生徒・学生等が利用できるセミナーハウスとして活用しています。

**休館日** 年末年始 (12月28日~1月5日)

**入館時間** 午前9:30~午後5:00 (3月~11月)  
午前9:30~午後4:00 (12月~2月)

**入館料** 一般 350円 中学生 200円 小学生 100円

**お問い合わせ** 電話 0742-26-6490 所在地 奈良市高畑町 1237-2



JR 奈良駅、近鉄奈良駅下車、(市内循環) 奈良交通バス  
約10分「破石町」バス停下車 東へ約350m、北へ約50m



志賀直哉旧居 HP



アクセス